

ヤマガラ



北海道神宮の境内、社務所に向かう途中でバードテーブルに集まる鳥達を見ていました。スズメとカラ類達でした。ヤマガラが皮つき落花生を足で抑え、音が聞こえる勢いで殻をつつき破りまして中身を食べます。手馴れた仕事のように見えました。ヤマガラの体軀からして、殻の中身落花生2個は結構な量であります。鳥達は飛ぶためには体重が軽い方が有り難いので、無駄食いはいたしません。持ち去りまして貯食をする様子も見えません。おおむねその場その近辺で必要なだけ食べているようでした。入れ替わり立ち代りテーブルから持ち去ります。このテーブルの認知度の高さと思恩恵を蒙っている鳥達の多さがわかります。餌の消耗が激しいと思いました。



北海道神宮の倒木、ニセアカシヤが多い

社務所前で酒井さんと芝さんに落ち合いまして中に入りました。初めての体験であります。さすが神宮であります。立派な社務所でありました。18号台風の被害の修復をお手伝いする意思を芝さんを通じてお伝えし、初めての顔合わせでした。神宮側の事情や方針をうかがいまして、意思の疎通をはかりました次第でございました。

伊勢神宮をはじめとしまして、橿原神宮、熱田神宮、明治神宮と思えばかべるだけで日本の伝統宗教神道の重みを感じます。その中では北海道神宮は歴史が新しいだけに、他に比較して見劣りがします。何が、といいますが、「鎮守の森」の様相が、であります。それらが去年の18号台風で被害を蒙りましていささか見栄えが悪くなりました。正面の鳥居から入りまして参道両脇のサワラの林は健在で、初詣の際にも違和感はありませんでしたが、社殿の背後の林はかなり痛みました。

2005年2月10日、改めて許可をいただきまして、後背林の被害状況を見てまいりました。主にはカラマツ、ニセアカシヤが倒れたり、折れたりしていました。いずれも大木ですが材としての価値は期待できません。その他の樹種は頑張っておりました。サワラをはじめアスナロ、スギ等もともと北海道では自生しない樹木が結構育っております。北海道樹種のエゾマツ、トドマツ等はわずか数本あるだけでした。

地球温暖化が改善される見通しが薄いことから、これから補植する樹種は100年後を見通してスギ、ヒノキ、アカマツ、クロマツ等内地の優れた常緑針葉樹も選択肢の一つだと思ったことでした。極端なはなし照葉樹のカシ類やシイ類そしてクスノキ等の導入も一考してはと考える次第であります。

神宮の森は100万坪もあるのだそうです。どこに？ と思いますよね。動物園や球場が間に入りまして繋がっていませんが、本殿の背後円山西町から盤渓にかけての山が「鎮守の森」なのだそうです。100万坪すなわち300haは、われわれが手がけている札幌市都市環境緑地の有明第二と澄川を足したおよそ10倍の広さであります。これの手入れを始めることになりそうなのであります。芝さん曰く「死ぬまで楽しめるぞ」なのであります。